

過去の優秀提言等の分析と 提言作りの参考ポイント

2012年(平成23年)1月20日 環境政策提言セミナー(第2回)
環境パートナーシップオフィス
環境活動支援工房 滝口直樹

NGO／NPO・企業環境政策提言の経緯

- 2001年(平成13年)から毎年実施
- 過去10回開催され、のべ、優秀提言26件、優秀に準じる提言50件 計76件を選出
(応募総数は498件)
- 2003年度選出の優秀提言より、翌年度に環境省の予算によりフィージビリティ調査を実施。政策につなげている。

応募・優秀提言等の状況

年度	応募件数	優秀提言	優秀に準じる提言
2001(13年)	56	7	—
2002(14年)	85	6	14
2003(15年)	43	2	10
2004(16年)	49	2	4
2005(17年)	40	2	2
2006(18年)	51	1	5
2007(19年)	56	2	3
2008(20年)	31	1	4
2009(21年)	55	2	5
2010(22年)	32	1	3
計	498	26	50

優秀提言・優秀に準じる提言の分析

過去10年の優秀提言、優秀に準じる提言、計76件について、その内容を以下の視点から分析

- 1 提言された政策が取り組む分野
温暖化対策等の課題ごと、基盤的手法ごと
- 2 提言された政策が働きかける主体
国、自治体、企業、市民／家庭、コミュニティ
- 3 主にその政策を実施する主体
国、自治体等
- 4 提言されている政策手法
法律、税制、制度、教育など

政策が取り組む分野

個別課題対応

循環社会形成・廃棄物対策	10
地球温暖化防止	24
生物多様性の保全	17
公害対策	1
化学物質対策	1
地球環境問題への対応	2

環境問題共通の基盤的取組推進

環境アセスメント	2
社会経済のグリーン化	3
持続可能な地域づくり	7
環境パートナーシップ	4
環境教育・ESD	5

政策のターゲット／働きかける対象

市民／家庭	28
企業	16
地方自治体	10
地域／コミュニティ	9
発展途上国(国際協力)	6
NGO	4
国	2
個人事業主／農家	1

政策の主な実施主体

国	35
地方公共団体	23
NGO／NPO	17
企業	1

何らかの形でのマルチセクターでの取組が位置づけられている政策がほとんど

例： NGO／NPOが主な実施主体であっても、パートナーとして行政関係者が位置づけられているケースが多い。

提案されている政策手法

法律の制定改正等	4	監視測定	0
条例の制定改正等	2	人材育成・教育	7
制度整備	17	組織体制整備	11
税制措置	2	経済／市場メカニズム	9
予算資金措置	8	情報関係	2
施設等整備	4	市民参加促進	1
調査研究	3	国際協力	6

<評価される提言のポイント 1>

解決が求められている課題に取り組んでいるか。

○社会として求められている課題(=政策課題)に取り組むものか。

→ そのときに最も重要な課題であると、なおよい。

→ その課題は、自分たちの最大関心事では必ずしもないことに注意。

○課題の問題構造を分析し、課題解決のボトルネックが特定・明確化されているか。

→ 総花的な取組では政策化しにくい

<評価される提言のポイント 2>

誰に働きかける政策かが、明確にされている

○取り組むべき課題が明確になったら、その課題を解決するためには、誰が動かないといけないかを考える。

- ・問題の原因者
- ・原因者に影響力を持つ主体
- ・取り組むリソースを持っている者 etc.

○働きかける相手・対象を明確化する。

<評価される提言のポイント 3>

効果的な手法・枠組みが選ばれている

○各政策手法の特性を踏まえる

- ・法律、予算、情報的手法などそれぞれ制度上の制約がある
- ・その手法を担う主体が違う
- ・それぞれ効果を生み出しやすい分野がある

→ 政策手法が、課題や解決主体にうまく適合しているか、が政策の実効性を高める。

○相乗効果を出すため、協働で取り組むことが効果的

<評価される提言のポイント 4>

政府職員では思いつかない新しさがある。

ONNGO/NPO・企業らしい、政策提言であるか

- ・分野、省庁横断的な取組
- ・取り組む主体の組み合わせの新しさ
- ・新しいツール、枠組み、技術の活用
- ・日頃の地域、コミュニティ、経済活動の中からの発想
etc.

今年度の政策提言も
大きな成果を上げられることを
期待します

ご清聴ありがとうございました